

令和6年度(2024年度)第3回函館市地域包括支援センター運営協議会 会議録

○ **開催日時** 令和7年(2025年)3月25日(火) 18:30～19:50

○ **開催場所** 函館市役所8階 大会議室

○ **会議内容**

1 開 会

2 議 事

(1) 地域密着型サービスの運営に関する事項

ア 地域密着型サービス事業者等の指定等について 資料1

(2) 地域包括支援センターの運営に関する事項

ア 第1号介護予防支援事業および指定介護予防支援の業務の一部を委託

できる指定居宅介護支援事業所の選定について 資料2

イ 令和6年度(2024年度)地域包括支援センター事業評価(国)に

ついて 資料3

参考資料1

ウ 令和7年度(2025年度)函館市地域包括支援センター運営方針に

ついて 資料4

参考資料2

3 その他

(1) 「函館市地域包括支援センターにおける包括的支援事業の実施に必要な

基準を定める条例」の一部改正について 資料5

(2) 「福祉拠点」自立相談支援機関実績報告および事例発表 当日配付資料

4 閉 会

○ **出席委員** (8名)

齋藤征人会長, 船橋優子副会長, 川口篤也委員, 二本柳美夏委員, 渡部良仁委員,
張磨仁委員, 村田亮二委員, 高森秀雄委員

○ **欠席委員** (3名)

川村曜補委員, 工藤晃士委員, 柏原美之委員

○ **地域包括支援センター** (10名)

あさひ 四戸管理責任者, こん中央 福島管理責任者, ときとう 長谷山管理責任者,
ゆのかわ 佐々木管理責任者, たかおか 松野管理責任者, 西堀 川村センター長,
亀田 若杉保健師, 神山 酒井管理責任者, よろこび 澁谷管理責任者,
社協 高田管理責任者

○ **傍 聴 者** 5名

○ **市関係者(保健福祉部)**

(福祉拠点担当) 伊藤課長, 山岸主査, 建部主査

(介護保険課) 高木課長, 齋藤主査

(指導監査課) 米澤主査

○ 事務局（地域包括ケア推進課）

横山課長，辻屋主査，石黒主任，山下主任技師

○ 会議要旨

1 開 会

2 議 事

(1) 地域密着型サービスの運営に関する事項

ア 地域密着型サービス事業者等の指定等について

齋藤会長

地域密着型サービス事業者等の指定等について，説明願いたい。

米澤主査

（資料 1 「地域密着型サービス事業者等の指定等について」に基づき説明）

齋藤会長

ただいまの説明について，意見・質問等はないか。

特にないようなので，協議会として意見がないということで，次にまいりたい。

(2) 地域包括支援センターの運営に関する事項

ア 第 1 号介護予防支援事業および指定介護予防支援の業務の一部を委託できる指定居宅介護支援事業所の選定について

齋藤会長

第 1 号介護予防支援事業および指定介護予防支援の業務の一部を委託できる指定居宅介護支援事業所の選定について，説明願いたい。

齋藤主査

（資料 2 「第 1 号介護予防支援事業および指定介護予防支援の業務の一部を委託できる指定居宅介護支援事業所の選定について」に基づき説明）

齋藤会長

ただいまの説明および資料 2 について，意見・質問等はないか。

特にないようなので，協議会として意見がないということで，次にまいりたい。

イ 令和 6 年度（2024 年度）地域包括支援センター事業評価（国）について

齋藤会長

令和 6 年度（2024 年度）地域包括支援センター事業評価（国）について，説明願いたい。

事務局

（資料 3 「令和 6 年度（2024 年度）地域包括支援センター事業評価（国）」に基づき説明）

齋藤会長

ただいまの説明について、意見・質問等はないか。

川口委員

地域ケア会議で開催計画の周知は必要ないということだが、どういうところに周知しているのか。個別ケースに関わる場合は個別ケースに関わるところに周知しているのだと思うが、それ以外はどのように周知しているのか。

事務局

それぞれの包括ごとに、地域課題を考えるうえで必要な関係機関の方をお呼びして会議を開催している。

齋藤会長

具体的な関係機関の例を包括の方から挙げていただけるか。

包括たかおか 松野管理者

近年開催している地域ケア会議では、町会関係者、民生委員、在宅福祉委員会など、あとは、圏域内の老人クラブの皆さんなどにお集まりいただいている。

包括ときとう 長谷山管理者

当圏域はマンションが多いので、マンションの管理組合の方や住人の方、圏域内の民生委員などに集まっていたいただいている。

齋藤会長

資料3の2ページの「3. 評価結果の活用について」の中に、「② 地域包括支援センター運営協議会への報告と意見聴取」とある。報告された事業評価に対して、皆さんから他に意見等があれば伺いたい。

先ほど説明もあったので皆さんご承知と思うが、参考資料1の3ページにピンクで6つ×がついているところが少し目立つが、これは、具体的な事例が発生しなかったので×になっている。必要に応じて情報共有できる体制になっていることを確認しているということなので、特に問題には当たらないということによろしいか。

それでは、資料3については、質問はあったが、意見は特になしということで、次にまいりたい。

ウ 令和7年度（2025年度）函館市地域包括支援センター運営方針について

齋藤会長

令和7年度（2025年度）函館市地域包括支援センター運営方針について、事務局から説明願いたい。

事務局

(資料4「令和7年度(2025年度)地域包括支援センター運営方針(案)」に基づき説明)

齋藤会長

事務局の説明および資料4について、意見・質問等はないか。

高森委員

先程の川口先生のお話と重複するかもしれないが、包括支援センターの重点活動の一つである地域ケア会議推進事業について教えていただきたい。

先ほど事務局から資料3で説明をいただいた評価結果概要について、センターの実施率がほぼすべて全国を上回る割合ということで、各センターの皆様が非常に熱心に取り組まれていることを心強く感じた。また、資料4の2ページ目の(2)包括的支援事業については、地域ケア会議の目標値は、個別ケースに関するものが58回、地域課題に関するものが30回、合計88回とされているが、これも皆さんの尽力が伝わるもので、感謝申し上げる。回数も妥当と思う。ご承知の通り、地域ケア会議の開催に当たっては、日程調整、各種資料の準備、当日の運営、開催後の議事録作成など多岐に渡る業務が伴い、1回の開催に相当な労力と時間を要するものと推察している。そこで、会議の開催に当たり、各センターで円滑な運営のために工夫している点などがあれば教えていただき、皆様と共有したい。

齋藤会長

情報共有ということで、事務局ではなく各センターから、工夫していることなどがあればお願いしたい。

包括社協 高田管理者

圏域が戸井から南茅部と非常に広いので、旧4町村ごとに4回ずつ、内容濃く会議を開こうと取り組んでいる。今年度は南茅部地区で2回開催し、次年度も引き続き南茅部で2回開催する予定で、1回目はまず地域の課題について皆さんと話し合い、次にアンケート調査等を行いながらより具体的な課題を共有し、3、4回目に、実際に地域の皆さんと何ができるかすり合わせながら進めようとしているところである。

包括よろこび 澁谷管理者

北部地域では、町会も多数あるので、町会の会合に参加しながら町会の皆様と行事等について情報共有し、地域の課題などを確認しながら、確認した内容についてテーマを設けて地域ケア会議を行っている。そのほか、民生委員の定例会議に参加して情報共有したり、民間企業が参画している会議などもあるので、そういうところで情報共有して課題を確認したり、課題解決の取り組みをする中で新たな課題が見つかった場合には、都度取り組みを繰り返しながら、地域の課題解決に向けたケア会議を行っている。

個別ケースの地域ケア会議については、民生委員や町会で見守り支援等の活動をしている方から身寄りのない人に関する話を聞いたりするので、そうした問題ごとについて、本人から同

意をもらったうえで、協力いただける各関係機関を交えて開催しているほか、支援関係機関からの問題ごとに関してアンテナを張るなど、地域の声を聴きながら行っている。

包括神山 酒井管理者

工夫と言えるかわからないが、個別ケースの会議でも地域課題の会議でも、来てくださる方はとても忙しいので、日程調整はなるべく早く行うようにしている。あとは、きちんと時間内に収まるように、開催の目的やどんな意見を言ってもらいたいかなどを事前に伝えて、意見を持って参加していただけるようにするなど、最低限のことだと思うが行っている。

包括亀田 若杉保健師

当圏域は、人口は比較的多いが町会数は少なく、大きい町会が多いという特徴がある。地域課題のケア会議を行う時は、だいたい町会単位で声をかけているが、今年は3か所の町会で開催し、一つは割と規模の大きな町会だった。まずは町会の中でも民生委員など声をかけやすいところから声がけをし、あとは介護事業所にも声をかけている。あと、工夫としては、民間の事業所、コンビニなども、結構相談をいただくことが多いので、そうした比較的我々と仕事をしてくださっているところに声がけをする、というのはある。

包括西堀 川村センター長

町会や民生委員など、地域の方との顔の見える関係性を重視し、担当地域に職員を固定して顔の見える関係を作る努力をしている。令和6年度の地域ケア会議では、金融機関から認知症の方が来てトラブルになったという相談が何件かあったので、地域の郵便局や銀行の窓口の方に集まってもらい情報共有と連携を図った。個別ケースの会議では、地域のケアマネジャーや支援者との連携を重視し、こちらから連携を図るためにそれらの方々に声掛けして開催した。

包括ゆのかわ 佐々木管理者

個別ケースの会議は計画以上に数をこなしているが、一番はセンターの職員が経験できる環境を作ることで、苦手意識を持たないということ。地域の方は会議では固くなりがちだが、敷居を高くしないということ。そのためには、色々な専門職の方が来ても、できるだけ共通言語を使う。個別ケースでも地域課題でも、地域のことを話すので、少しでも身近に、そういう空気感は大事だと思っている。地域課題の会議では、地域の大小にとらわれず、その時の課題によって、より小さい単位または大きい単位での開催もするようにしている。大きい単位だと準備の手間もかかるのだが、小さいとそこまでかからないので。

成果としては、最近、難しい地域で困難を抱えている方を見守っている関係者から「地域ケア会議をやってもらえるか」という声が出てくるようになったことが一番の成果だと思っている。先程言った、敷居が高くないことや目標設定が高すぎないということも含めて、地域の方がある意味気軽に、身近に感じられるものにするには意識づけていきたいと考えている。

包括たかおか 松野管理者

個別ケースの会議に関しては、居宅介護支援事業所のケアマネジャーから「こういうケース

を相談して欲しい」と言ってもらえるような環境ということで、ケアマネジャーの研修会等で発信させてもらい、募っている。地域課題の会議では、社協に次いで第2の広さを持つ当圏域には37町・32町会があり、全部やるのは非常に大変なのだが、圏域内に民生児童委員の協議会が14・15・17方面と3つあるので、まずそのエリアで分けて、さらにそれを2つに分けて、6つに区分して取り組みを行うという工夫をしている。最近継続している取組としては、それぞれの団体がいろいろな活動をしているので、それと地域住民がマッチングできるような、例えばこの町会でこういうサークル活動をやっていて、それに参加できる、というような冊子を作成している。第1版、第2版と継続してきて、今は第3版の発行に向けて動いている。地域住民から活動のことを聞き、集うことの大切さなどを伝えながら、取組を進めているところである。

包括ときとう 長谷山管理者

キーワードとしては、当圏域は教育機関、学校が多いので、継続性というところは考えている。学生は入学し卒業していくので、そこを単発ではなく継続して行っていけるように、メンバーと常に考えている。労力は確かにかかるが、一度継続できる仕組みを作れば行っていけると考えており、そこは大事にしている。地域ケア会議が地域の人たちに無理なく浸透して行っていけるようにすることが、工夫している点だと思う。

包括こん中央 福島管理者

令和5年度から6年度にかけて行った取組として、住民主体の助け合い活動という多世代交流の場を作りたいという大きな思いがあった。そのことを地域住民、特に地域コーディネーターや民生委員などに相談したところ、町会単位で考えるのは無理で、人口が少ないのに交流交流といってもうまくいかないから、活動するためには一つのフィールド、具体的には小学校校区で考えたらどうかと提案をいただいた。そこで、6つの町が含まれている小学校校区で、その町の方々に助け合いや多世代交流についてどう思うかを聞き取ったり、懇談する機会をたくさん設けた。町会もそうだが、地域にある関係機関、障がい福祉事業所、医療機関、行政、民間企業など、たくさんの関係機関を回った。そして、地域で皆が考えているということを共有した方がいいと思い、地域ケア会議を考えた。こうした聞き取りや懇談を我々は根回しと呼ぶが、これをやると沢山の課題が出てくる。それをたった1回のケア会議で話せるものではないので、1回やって、必要だったら2回目をやる。参加が難しい場合は、聞き取ったことを会議で発表させてもらう。特に民間企業や障がい福祉事業所の方は日中手があかないので、信頼される関係性を作っていくと、聞き取った意見を会議で話していいですよと言っていた。そういうことを繰り返していくと、だんだんこの小学校校区でどんなことができそうか具体的なことが見えてくる。実際に今年度、小学校校区で1回取組を行うことができた。地域ケア会議が大変というよりも、そこに持っていくまでの準備が大変だと自分は考えている。

包括あさひ 四戸管理者

当圏域は西部地区で、高齢者が多く高齢化率も高い。工夫している点は、民生委員の定例会が第1方面から第3方面までの3つがあるので、そこに決まった職員を配置して、民生委員の

定例会には毎月出席している。そうすることで顔の見える関係性ができ、相談しやすくなっていると思う。地域で最も工夫している点は、高齢者が多く、新しいことが難しい地域なので、既存の社会資源に無理のない範囲でつなげるように考えている。包括ゆのかわの意見でも出ていたが、我々も地域ケア会議自体の敷居が高くないように、広報誌の配付時に、中部地区は小さい商店などがまだまだ多い地域なので、例えば、高齢者が多く通っている個人商店の花屋や美容室などに地域ケア会議を紹介している広報誌を配付している。また、地域ケア会議の年間活動報告を、年度初めに居宅介護支援事業所のケアマネジャーと民生委員全員に配布し、昨年度はこういう会議をしました、ということを知っている。

齋藤会長

高森委員から何かコメントがあればどうぞ。

高森委員

大変勉強になった。やはり共通しているのは、企画から準備の段階が一番大変だということで、各地域で面積や人口構成などが違うので、それぞれの特徴が表れていたと思う。これからも引き続きよろしくお願いします。

齋藤会長

他に何かあるか。(なし)

事務局に伺いたい。12ページに第1層と第2層生活支援コーディネーターのくだりがあるが、2層協議体とは、函館の場合、各包括でやっている地域ケア会議の地域資源版のようなイメージだと思うのだが、1層の協議体は年何回くらい開催しているのか。

事務局

年1回開催している。

齋藤会長

2層協議体、函館でいえば地域資源版の地域ケア会議は、資料にあるとおり結構な回数が開催されているが、1層は年1回ということで、2層協議体と1層協議体の連携を今後どう図っていくのか、ということをお聞きしたい。また、2層コーディネーターがいる包括と1層コーディネーターがこれからどう連携を図っていくのか、事務局として考えがあれば伺いたいし、課題感のようなものがあれば共有したいと思う。

事務局

第1層と第2層の生活支援コーディネーターは毎月1回連絡会を開催しており、お互いの活動状況の報告や情報共有などを行うことにより連携を図っており、学校との連携や福祉拠点として行っている地域活動の取り組みなどを通じて高齢者と地域とのつながりを実感している包括がある一方で、社会参加に意欲のある高齢者を既存の活動の場につなげる支援など、課題も残っていると考えている。

齋藤会長

函館市は大きいので単純に他のまちと比較することはできないが、他のまちの場合、1層と2層を分けずに、1層の全町域の協議体といいながらとても身近な課題を話し合っているケースもある。多いところだと隔月で年6回、函館市の2層協議体よりも高い頻度でやっているところもある。少ないところは年1～2回のところもあるが。では、頻度が高いところはそんなに話し合うことがあるのかというと、これが結構ある。包括こん中央からも出ていたが、話せば話すほど結構ある。「これをやってみよう」、「この町のためにやってみよう」という意欲的な動きをする協議体であれば、参加しているメンバーも積極的なので、頻度を高くしないと取り組めないというくらい熱心にやっているまちもある。だから、函館市ベースで考えるとよくやっているように見えるが、他のまちの事例を見ると、別なやり方があるのではないかと。頻度が多ければいいわけではないが、色々なやり方があると思いながら話を聞いていたので、準備も大変だと思うが、これからも引き続き取り組んでいただければと思う。

その他いかがか。運営方針案全体を通じて何かお気づきの点はないか。

それでは、ただいまのご意見を参考にさせていただきたい。

3 その他

(1)「函館市地域包括支援センターにおける包括的支援事業の実施に必要な基準を定める条例」の一部改正について

齋藤会長

その他(1)「函館市地域包括支援センターにおける包括的支援事業の実施に必要な基準を定める条例」の一部改正について」に関して、事務局から報告願いたい。

事務局

(資料5「『函館市地域包括支援センターにおける包括的支援事業の実施に必要な基準を定める条例』の一部改正について」に基づき説明)

齋藤会長

ただいまの説明および資料5について、意見・質問等はないか。

特にないようなので、協議会として意見がないということで、次にまいりたい。

(2)「福祉拠点」自立相談支援機関実績報告および事例発表

齋藤会長

(2)「『福祉拠点』自立相談支援機関実績報告および事例発表」に関して、事務局から報告願いたい。

伊藤課長

(当日配布資料「令和6年度『福祉拠点』自立相談支援機関相談実績(4月～R7.1月分)」に基づき説明)

地域包括支援センターゆのかわ 木村氏

(当日配布資料「生活保護制度へつないだ支援事例について」に基づき説明)

※上記資料は協議会終了後回収

齋藤会長

前半の実績報告とただいまの事例発表について、ご意見・ご質問等ないか。

とてもいいお話だった。資料に「市役所主催の顔の見える関係づくりの場があったことで円滑に引継ぎを進められた」とあるが、これは定期的にそのような場があるということか。

伊藤課長

年1回、本庁・湯川支所・亀田支所と別れて、ケースワーカーと窓口担当者と包括の意見交換会を開催している。

齋藤会長

その他いかがか。

特にないようなので、その他に関して、事務局から何かあるか。

齋藤会長

その他に関して、委員の皆様から何かあるか。

事務局，委員，センター

特になし。

(閉会)